

地域ぐるみで防災に取り組もう

地域防災活動の重要性

大規模な災害が発生した場合、行政機関だけで災害に対応することは、極めて困難な状況となります。災害による被害を最小限にとどめるには、自分たちの地域は自分たちで守るという気持ちで、地域の皆さんのが「力」を合わせて行動することが重要です。



自主防災組織を作ろう、参加しよう、育てよう



地域の住民同士が話し合い、いざというときに組織力を発揮できるよう、平常時からみんなで協力し合いながら防災活動に取り組みましょう。

自主防災組織の平常時の主な活動

▼ 防災知識の普及

地域住民一人ひとりの防災への関心を高めることが大切です。お祭りや運動会、美化デーなどと併せて防災イベントを実施しましょう。地域の人が多く集まるイベントに防災訓練を組み込むことによって、防災知識の普及につながります。



▼ 防災点検を行う

地域内の危険箇所や、避難場所までの安全経路を確認して、「地域オリジナル防災マップ」を作成してみましょう。また、防災倉庫の備品の点検や各家庭の防災用品のチェックをしましょう。



▼ 日ごろからのコミュニケーション

災害時の安否確認や、地域での支援活動をスムーズに行うために、日ごろから地域の方とのコミュニケーションをとりましょう。



▼ 防災資機材の整備

ヘルメット、消火器、担架、救急医薬品、非常食品、懐中電灯、ロープ、工具品など必要な資機材を準備しましょう。また、日ごろから点検を行い、使い方も確認しておきましょう。



▼ どんな防災訓練がある?

初期消火訓練 → 地域運動会で水ハサゲリレー。
炊き出し訓練 → 地域イベント内で炊き出し訓練を行い、みんなで試食。
避難誘導訓練 → ウォーキング大会コースで災害時に危険箇所となるような場所の確認。
…その他にも、応急救護訓練や情報収集伝達訓練など防災訓練には種類多くあります。地域のイベントや町の総合防災訓練に併せて実施しましょう。

自主防災組織の災害時の主な活動

▼ ご近所の安否確認

自主防災組織で決めた集合場所などでご近所同士の安否確認をしましょう。



▼ 近所、地域での助け合い

負傷者や倒壊家屋の下敷きになった人たちの救出・救助活動や、火災が発生している場合、初期消火活動を行いましょう。ただし、救出活動や消火活動は危険を伴う場合があるため、決して無理はせず、二次災害に十分注意しましょう。



▼ 情報収集、伝達

災害に関する正しい情報を地域に伝達。また、地域の被害状況などを取りまとめましょう。



▼ 避難誘導、避難所運営

安全な場所への誘導や、災害時要配慮者の安否確認、避難所の開設や運営、衛生管理も行っていきましょう。



感染症対策

ウィルス等の感染症が収束しない中でも、**災害時には**

危険な場所にいる人は避難することが原則

適切な行動をとりましょう

知っておくべき 4 つのポイント

1 避難とは『難』を『避』けること

自宅での安全確保が可能な人は、避難所に行く必要はありません。

2 避難先は学校・公民館だけではありません

避難所が過密状態となることを防ぐため、安全な場所に住む親戚・知人宅に避難することも検討しましょう。

3 マスク・消毒液・体温計が不足しています

避難所の備蓄には限りがあるため、できるだけ自ら携行してください。
(マスクがない場合にはタオル・ハンカチ等、消毒液はウェットティッシュでも代用できます)。

4 避難所、避難場所の変更を確認

本書発行後に情報が変わることもあります。
あらかじめ神川町のホームページ等で確認してください。

避難先では感染症予防に努めましょう

・避難所に入る前に

感染の拡大を未然に防ぐことが非常に重要です。
避難所に入る前に、発熱の有無など体調チェックを行いましょう。

・換気の実施

可能な限り、定期的に換気を行いましょう。



・手洗い、うがいをこまめに

食事前や、トイレなど共有部分に触れた後は、石けんと水で手洗いをしましょう。水を十分に確保できない場合は、アルコール消毒液などで代用しましょう。

・「3密」(密閉・密集・密接) の回避

避難者同士 2m程度の距離を保ちましょう。向かい合わせではなく背中合わせに座ったり、段ボールなどの間仕切りを利用すると、飛沫感染の予防になります。また食事時間をずらすなどして、密集・密接を避けましょう。

・咳エチケットの徹底

飛沫感染の予防のため、咳などが出ていてもマスクを着用しましょう。

・日々の健康状態をチェック

定期的に体温を測定し、体調の変化を感じた場合にはすぐに避難所のスタッフに相談しましょう。